



	短期計画					中期計画					長期計画
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14~R18
愛宕山石切場跡	調査	基本設計	実施設計	整備						公開	
ガイダンス機能			検討	計画作成・整備		基本設計	実施設計	整備			
内堀	調査・整備									公開	
石垣3次元測量	測量					維持管理					

※整備内容・スケジュールは予定であり、今後変更する場合があります。



計画について

本計画は、令和2年10月に策定した「史跡甲府城跡保存活用計画」に基づき、本県を代表する貴重な歴史遺産である甲府城跡を保存し、その価値を次世代に確実に継承し活用していくため、城がもつ多様な価値を明らかにし、地域の誇りとするにふさわしい史跡とするための整備方針を定めたものです。

令和4～18年度までの15年間で計画期間とし、最初の5年間で短期整備計画として位置付け、優先的に行う必要のある整備を実施することとしています。この中では、その価値を確実に保護した上で、近代以降の市街地化によって現在、まちの景色の中に埋もれている城本来の姿を明らかにする整備をおこない、来訪者が往時の城の景観を体感し、史跡という場で楽しみながら学べる環境をととのえます。さらに、城の魅力を資産として観光振興や地域活性化に繋げることを目指します。



出土瓦の刻印

甲府城跡とは？

武田氏滅亡後、平岩親吉・羽柴秀勝・加藤光泰らにより築城が開始され、浅野長政・幸長父子の時代に完成したとされます。

江戸時代には、甲府城は関東を守護する要とされ、江戸時代中期の柳沢吉保・吉里父子時代には城の大規模改修や城下町整備が行われました。柳沢吉里の転封後は、甲斐一国が幕府直轄領となり、甲府城の守護と城下町支配は、甲府勤番により交代で行われ、甲府城は城主不在の城として特異な形で存続しました。

城に石材を供給した、愛宕山石切場跡とセットで国史跡に指定されています。

甲府城跡の価値

【本質的価値】

1. 近世日本の政治・軍事の歴史を知るうえで重要な甲斐の拠点城郭

甲府城跡は東日本における初期段階の織豊系城郭であり、江戸時代には、関東を守護する要とされ、徳川直系の城主が置かれました。築城期から江戸時代を通じて、当時の政治・軍事の状況と築城当初の技術を知る上で重要なお城です。

2. 城郭の形態の特徴を留める階層的な縄張りりと史跡景観

独立した丘陵最頂部にある天守台・本丸を中心として、その周囲に天守曲輪、稲荷曲輪、数寄屋曲輪、鍛冶曲輪などを階層的に配置する縄張りの特徴がよくのこされています。

3. 築城期のすがたを良好に残す野面積み石垣

天守台を筆頭に各所で高さ10m級の野面積み石垣が多く見られ、特に稲荷曲輪東側の高さ約20mの「矩返し」勾配の高石垣は、東日本最大級を誇ります。これらは近江国志賀郡坂本を本貫地とする穴太の石積み技術の系譜にあたるものと評価されます。

4. 時代の変遷を示す遺構と出土品

金箔瓦や鯨瓦、豊臣家や浅野家の家紋瓦、鉄門・稲荷櫓など城内建造物の礎石等、豊富な出土品や遺構は、織豊期から始まる甲府城の歴史をよく伝えています。

5. 城内及び城近接地（愛宕山）に残る石切場跡

甲府城がある一条小山は、安山岩の岩盤であり、石材供給源でもあり、各所には石切場跡が残されています。また、城の北東にある愛宕山山麓にも石切場跡が確認されており、城と石切場がセットでのこされている点で貴重です。



階層的な縄張り



天守台の野面積み石垣



愛宕山石切場跡の矢穴



稲荷櫓台で出土した地鎮具

整備の理念

－目指す甲府城跡の姿－

本物を感じ 価値を共有し みんなで守り伝える 地域の「城」

調査研究を行い、価値ある、歴史的・文化的資産を未来に伝える

→ 調査研究を継続的に行い甲府城跡の本来の姿を明らかにし、本質的価値を確実に保存し未来に継承する。

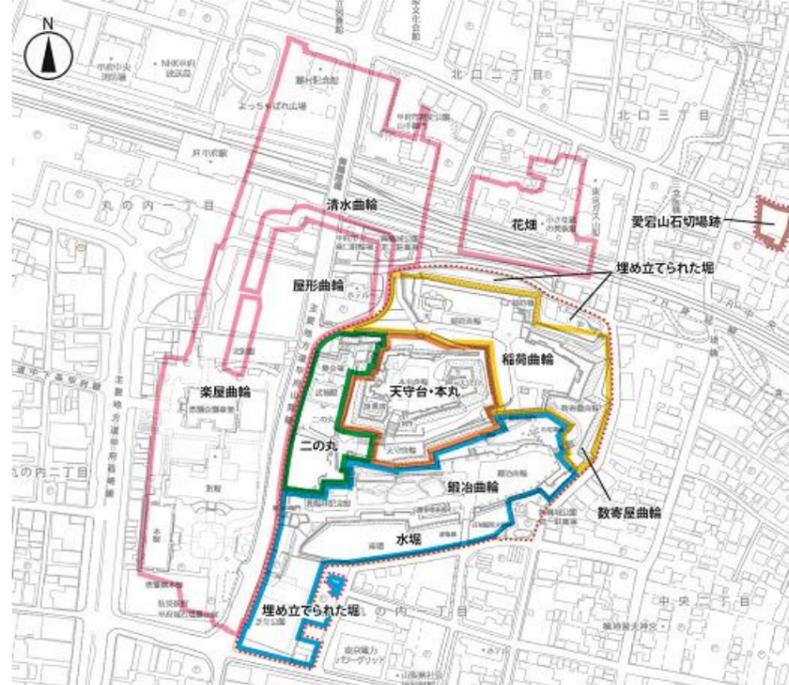
史跡の価値を可視化し、地域づくりの拠点としていく

→ 甲府城跡の様々な価値をわかりやすく伝える整備を行い、山梨県の歴史的シンボルとしての存在感を高める。

城の魅力を観光振興や地域活性化につなげる

→ 甲府城跡の価値を積極的に発信し、史跡の価値を軸に観光拠点としてのイメージ向上を図り、まちづくりに活用することで周辺地域の活性化につなげる。

地区別の整備方針



愛宕山石切場跡ゾーン

- ・城と石切場が近接するという甲府城跡の特徴を顕在化させる整備を行う。
- ・現地は未公開であることから、これを安全に公開するための環境整備を行う。
- ・城と石切場跡とをつなぐ回遊動線の整備を行う。

稲荷曲輪・数寄屋曲輪ゾーン

- ・野面積み石垣や曲輪の構造等について、現地でわかりやすく伝える方法について検討し整備を行う。

天守台・本丸ゾーン

- ・天守台からの眺望についてわかりやすく解説し、ここからの眺めの意味を来訪者に伝える。

二の丸ゾーン

- ・現況図がない石垣については、3次元測量等を行い、現状把握を確実に進行。

埋め立てられた堀ゾーン

- ・史跡の特徴(階層的な曲輪・石垣・水堀等)を視覚的に体感できる場所であることから、堀を一部復元整備して史跡景観を復元し視点場の整備を行う。
- ・来訪者に心地よい憩いの場を提供するための環境整備を行う。

鍛冶曲輪ゾーン

- ・曲輪が改変されている箇所については、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。ただし現状では都市公園として機能している部分もあるため、これを考慮する。

史跡外の内城ゾーン

- ・甲府城跡石垣展示室、甲府市歴史公園山手御門、鉄門・稲荷櫓(史跡内)の4箇所の展示施設について、統一したコンセプトに基づいた展示のための検討を行う。
- ・大手門など指定地外の重要な遺構の顕在化について検討する。
- ・史跡とその周辺の回遊動線のあり方について検討する。

短期整備計画の内容 (令和4(2022)～8(2026)年度)

調査・研究 ー価値の保存と史跡整備に向けてー

- ・城らしい景観の復元を目指し、大手門に近接する内堀復元整備に向けての発掘調査を行います。
- ・城への石材供給源であった愛宕山石切場跡の姿を明らかにし、整備につなげるため、発掘調査を実施します。
- ・甲府城跡の本質的価値である石垣を確実に保存するための点検および調査を引き続き実施します。
- ・古文書や日記、絵図などの資史料調査を行い、充実した活用整備につなげます。



愛宕山石切場跡の矢穴



二の丸石垣の点検・調査

整備等に向け調査が必要な箇所



整備予定地(左:愛宕山石切場跡・右:内堀(赤枠内))

- ・甲府城へ石材を供給した愛宕山石切場跡の姿を復元し、城と石切場をセットで理解できるようにします。また、来訪者が安全に見学できる環境をととのえます。
- ・大手門に隣接する城の表玄関にあたる内堀を顕在化させる整備を行い、来訪者が城らしい景観を体感し、楽しみながら学べる場を提供します。

- ・ガイダンス機能をもつ既存施設(鉄門・稲荷櫓・甲府城石垣展示室・甲府市歴史公園山手御門)の展示内容について統一したコンセプトに基づいた展示計画を作成します。



既存のガイダンス機能(左:稲荷櫓・右:甲府城石垣展示室)

活用整備 ー史跡の価値をわかりやすく伝えるためにー

保存整備 ー史跡の価値を未来へ継承するためにー

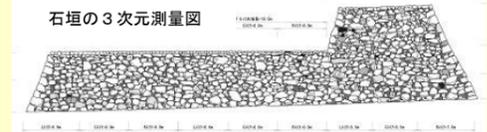
- ・災害時のき損に備え、城内の石垣のうち、現況図がないものについては3次元測量を行い、復旧のための根拠データを蓄積します。
- ・石垣石材への落書きが目立つことから、これを目立たなくする方法を検討し実施します。併せて、石垣を大切な文化財として認識してもらう機会の創出に取り組みます。
- ・稲荷櫓周辺の石垣表面に見られる線刻画について、これを確実に保存するための方法を検討し、適切に保護します。
- ・史跡を確実に保護するため、史跡境界杭を設置します。



石垣石材への落書き消し作業



文化財保護を伝える機会の創出



石垣の3次元測量図

様々な価値を明らかに。
地域が誇る史跡を活用していく。



鉄門で演奏会



石垣きの体験イベント

- ・発掘調査や整備等を公開し、現地で歴史を体感できる機会を積極的に提供します。
- ・甲府城跡に関する情報を積極的に発信し、調査研究・整備・イベント等に関する情報提供を行います。
- ・都市公園という場で、史跡甲府城跡を活用します。

- 城らしさを感じられる場として積極的に活用
〈例〉高石垣を利用したプロジェクションマッピング、甲府城マルシェ、演奏会、お茶会など
- 甲府城跡の価値のブランド化
〈例〉ロゴ・イメージカラーなどによる価値の可視化



史跡を活かす ー観光資源として まちづくりへー